

地代の性質及び増進

高橋次郎

譯者小引

是は、一八一五年にロンドンに於いて出版せられた所の、マルサスの『地代の性質及び増進、並びに地代の決定せられる諸法則に關する研究』(An Inquiry into the Nature and Progress of Rent, and the Principles by which it is regulated. By the Rev. T. R. Malthus, Professor of History and Political Economy in the East India College, Hertfordshire. London: Printed for John Murray, Albemarle Street. 1815.) の全譯である。

譯者は、Dr. Lujo Brentano 及び Dr. Emanuel Leser 編纂の Sammlung älterer und neuerer staatswissenschaftlicher Schriften des In- und Auslandes. 5. Robert Malthus: Drei Schriften über Getreidezölle aus den Jahren 1814 und 1805. Herausgegeben von E. Leser. 所載の同論文の獨譯

をも参照して譯出するつもりであつたが、遺憾ながらそれを手にする事が出来なかつた。

此のパンフレットは、僅かに六一頁のものであるが、極めて豊富な内容を持つて居て、差益地代の理論の闡明に大なる貢献をなし、有名ナリカアドの地代論も直接にマルサスの此のパンフレットに負ふ所が大である。此の點に就いての詳細は、拙稿『地代理論の歴史に於けるマルサスの地位』（『商學討究』、第二卷、下冊）を参照されん事を望む。

注 意

次の小論策は、地代に關する或る記録の實質を包含して居る。それは、經濟學に關する種々の問題に就いての他の記録と共に、私が東印度大學に於ける教職中に集録したものである。私は、早晩、是等のものを出版の形式になす心算であつたが、此の研究の題目が、現在論議せられつゝある論題と極めて密接に關聯して居る事が、私をして、今直ちに之が發表を急ぐに至らしめたのである。公衆の知囊に對して何等かの貢献をなす手段を有する人は、單に貢獻すると云ふだけではなく、それが最も有用であると思はれる時期に於いて之をなす事が其の人の義務である。若しも、讀者にとつて、此の論說の性質が小冊子の形式に適しない様に見えるならば、私はそれに對して、元

來これは斯くの如く一時限りの形態を目的として企てたものではない、と云ふ事を以つて陳謝しなければならぬ。

地 代

土地の地代は國民歳入の一部分であつて、それは常に非常に重要なものとして考へられて來た。

アダム・スミスに従ふと、地代は社會の三大階級が支持せられる所の富の三根源の一である。

エコノミストによると、地代は非常に卓越せるものとして區別せられて居るので、地代のみが、財寶の名に値し、且つ國家の租税を支持する事が出來、結局租税が負擔せらるゝ所の唯一の基金であると思へられた。

而して、目下、穀物關税に就き、地代の粗生々産物に對する影響に就き、及び農業の進歩改良に就き、論議せられつゝあるが故に、此の時に際して、地代は吾々の注意を惹く特權を有するであらう。

土地の地代とは、その當時の農業資財の利潤の通常率によつて評價せられる所の投下資本の利潤をも包含して、その種類の何たるを問はず、耕作に屬する凡ての出費が、全生産物の價值の中から

支拂はれた後に、土地の所有者に残る所のその部分である、と定義する事が出来る。

時々、偶發的或は一時的の事情から、農夫は之以上に或は之以下に支拂ふ事がある。併し乍ら、支拂はれたる現實の地代は、之に向つて恒常的に移動して行く。従つて、之は、地代なる語が一般的の意味に用ひられた時に常に考へられる所のものである。

地代の直接の原因は、明かに粗生々産物の市場に於ける賣價が生産費以上に超過する事である。従つて、研究に對して第一にあらはれる對象は、粗生々産物の高い價格の一原因或は諸原因である。

此の問題に就いて非常に注意深く且つ繰返して熟考した結果、私は、アダム・スミス或はエコノミストの地代に就いて採つた見解には全然同意する事が出来ない、又、近代の學者達の或者の見解には、それよりも尙ほ一層同意する事が出来ない、と云ふ事を發見する。

之等の學者の殆んど凡ては、地代をば土地の性質及びそれが支配せられる法則に於いて、獨占の特徴たる生産費に對する價格の超過と精密に類似せるものとして考へて居る様に、私には思はれる。

アダム・スミスは、『諸國民の富』——譯者補——第一編第十一章の或る部分に於いて地代を全く

その眞の光明に於いて考察し、* 且つ、彼の著作を通じて此の問題に對して他の如何なる著者よりも正しい觀察を所々に搜入したけれども、彼は粗生々産物の高い價格の最も本質的な原因には時々觸れたゞだけで、それを充分明確に説明しなかつた。そして、時々獨占のより根本的な特異性に着眼する事を止めずに、獨占と云ふ術語を土地の地代に用ふる事によつて、彼は生活必需品の高い價格と獨占商品の高い價格との間の眞の差異について確乎たる印象を讀者に與へなかつた。

* 併し乍ら、私は、食物を産する所の凡ての土地が必然的に地代を生じなければならぬと云ふ考へに於ては、彼と意見を同じにする事が出来ない。進歩せる國に於て繼續的に耕作せられる土地は、たゞ利潤と労働とを支拂ふかも知れない。勿論、労働の支拂をも包含して、使用せられた資本に對する公平なる利潤は、常に充分なる耕作の誘引である。

エコノミストが地代の性質に就いて懷いて居た見解の中のあるものは、同様に、全く正當である、と私には思はれる。併し乍ら、彼等はそれに多くの誤謬を混入して、非常識極まる矛盾せる結論を導き出した。それ故に、彼等の學說の中に於いて、眞理なるものは、曖昧にせられ、上に横はる誤謬の集團の中に見失はれて、その結果殆んど効果を擧げなかつた。彼等の偉大なる實際的結論、即ち單に地主の正味地代にのみ課税する事の妥當性は、明かに之等の地代をば普通の獨占と異なる所の生産費を超過する價格の餘剰の如く完全に處分し得ると考へる事に依存する。

セイ氏は、彼の價值ある『經濟原論』に於いて、偉大なる明晰さを以つて、アダム・スミスが充分に述べなかつた所の幾多の點を説明したけれども、地代の問題をば充分満足する様な方法を以て取扱はなかつた。土地と同様に、人間の勞働と協働する他の自然的要素を述べるに際して、彼は次の様に觀察して居る。「幸にして、何人も未だ、風と太陽とは私に屬し、且つ彼等がなす所の勤勞は私に支拂はれなければならぬ、と云ふ事が出来なかつた。*」そして、彼は明白なる理由によつて、土地の固有性が必要であると認めて居るが、尙ほ彼は明かに地代をば殆んど全く斯かるものゝ擅有及び外部的需要から生ずると考へて居る。

* 二卷、一二四頁、此の著作の新しい非常に改良された版が最近出版された。それは、大いに此の主題に興味を有する凡ての人の注意に價するものである。

ド・シスモンデイ氏の傑作、『商業的富に就いて』に於いて、彼は地代の問題の註に於いて次の様に云つて居る。「土地の地代の此の部分は、國民的富に何物かを加へた所の勞働の唯一の果實として、エコノミストが純生産物と云ふ名を以つて飾つた所のものである。之に反して、又、それは勞働の生産物の唯一の部分であり、その價值は純粹に名目的であり實在的な何物をもつて居ない、と主張する事も出来る。それは實際或る賣手が自己の特權の効力に於いて得る所の價格を増大

する事の結果である。その賣られたる物自身は、尙ほそれによつて多くの價値を得る事がない。*

* 一巻、四九頁。

我國「英國——譯者補」に於いて、より近代的なる學者達の間に行はれて居る私見は、此の問題に就いては同一の意見に傾いて居る様に、私には思はれる。それ故に、私は引用を繰す事なく、最近エヂンバラのブカナン氏によつて出版された『諸國民の富』の極めて貴重なる版本に於いては、獨占の觀念が尙ほ一步を進めて居る、と云ふ事だけを附け加へて置くであらう。即ち、從來の學者達は、地代は獨占の法則に支配せられると考へたけれども、尙ほ彼等は土地の場合に於ける此の獨占は必要であり、且つ有益であると云ふ意見を抱いて居たのであるが、ブカナン氏は時には之を以つて僻見であるとさへ謂ひ、而してそれは地主に與へる所のものを消費者から掠奪するのであると謂つて居る。

後卷に於いて、生産的及び不生産的勞働を取扱ふに當つて、彼は、「エコノミストが農業の効用を評價する標準となす所の正味餘剰は明かに農産物の高い價格から生ずるものである。しかし、それが如何にそれを受取る地主にとつて有利であるにしても、それを支拂ふ消費者にとつては何等利益のない事は確かである。農業の生産物が、より安い價格で賣られるとしたならば、耕作の諸出費

を支拂つた後に、同一の正味餘剰が残つて居ないであらう。しかし、農業は一般的資財に對しては尙ほ同様に生産的であるであらう。そして、唯一つ異なる點は、前には地主が社會の出費に於いて高い價格によつて富裕にせられて居たのであるが、今や社會が地主の出費に於いて安い價格によつて利益を得るであらう、と云ふ事であらう。高い價格——その中から地代、又は正味餘剰が生ずる——が、販賣すべき農産物を有する地主を富裕ならしむるに反して、同一の割合を以てその買手たる人々の富を減少せしめる。故に、かゝる理由によつて、地主の地代をば國民的富に對する正味の附加と考へる事は全く誤つて居る。』*と云つて居る。彼の著書の他の部分に於いて、彼は同様の言葉、否寧ろ一層強調せる言葉さへ用ひて居る。そして、租稅論と云ふ題目の下に於ける註に於いて、彼は土地の生産物の高い價格は、それを受取る人々にとつては有利であるが、それを支拂ふ人々にとつては比例的に有害であると云つて居る。彼は、附言して曰く、「此の見解に従ふと、それは社會の資財に對して何等一般的附加分を形成する事が出來ない。問題の正味餘剰は一階級から他の階級に移された——即ち、斯くの如くその持主を變更すると云ふ單なる事情から生じた一の歳入に外ならないのであるから、その中から諸稅を支拂ふ所の基金が何等起り得ないのである。土地の生産物に對して支拂ふ所の歳入は、既にその生産物を購買する人々の手に存して居る。そして、若

しも生活資料の價格がより安かつたならば、それは尙ほ彼等の手中に留つて居るであらう。そして、それが彼等の手中にあると云ふ事は、より高い價格によつて、それが地主に移された場合に於けると同様に、租税に對して同様に役立つであらう。』* *と。

* 四卷、一三四頁、

* * 三卷、二一二頁、

地代と關係する或る事情——即ち、自然的獨占との近似のある事は、容易に承認されるであらう。土地自身の廣袤には限度があつて、人間の需要に従つて擴大する事が出來ない。そして、土壤の不均質性から、社會の原始時代に於いてさへ、最良の土地が比較的に稀であると云ふ事が生ずる。そして、此の點に於いて、疑もなく、地代の諸原因の一は、正しくさうであると呼ばれて居る。恐らく、此の理由によつて、一部獨占と云ふ術語が正しく適用し得るものとなるであらう。しかし、決して斯かる意味の土地の稀少性のみが上述の効果を發生せしむるのに充分なのではない。而して、此の問題に關する所のより精確なる研究は、粗生々産物の高い價格と通常獨占の高い價格とは、地代の性質及び起源の兩者、並びにそれが支配せられて居る所の諸法則に於いて、本質的に如何に相違して居るかと云ふ事を示す。

粗生々産物の高い價格の諸原因は三つである、と云ふ事が出来るであらう。

第一に、且つ主として、土地の性質——それによつて、土地の上に使役せられたる人々の維持に要するよりも、一層大なる生活必需品を産出し得るのである。

第二に、生活必需品の特性——それは、自らその需要を創造し、若くは生産せられたる必需品の分量に比例して需要者の數を増加する事が出来る。

而して、第三に、最も肥沃なる土地の比較的稀少なる事。

茲に、粗生々産物の高い價格の第一次的原因として述べた所の土壤及びその生産物の性質は、人間に授けられた自然の恩恵である。それは、全然、獨占とは無關係ではあるが、地代の存在にとつては絶對的に本質的なものである。従つて、若しもそれがなければ、如何なる程度の稀少性及び獨占も、粗生々産物の價格の生産費に對する超過——地代は此の形式に於いてあらはれる——を惹き起す事はないであらう。

例へば、若しも土地の土壤が如何に人間の勤勞が旨く向けられても、彼はその土地からその諸生産物に必要であつた勞働と注意とを與へた人々を維持するのに充分であるだけのものより以上のものを生産する事が出来ない様なものであるとしたならば、此の場合に於いては食料と粗生々産物と

は明かに現在に於けるよりも、稀少であり、土地は同様に特別の持主によつて獨占せられて居るであらうけれども、しかし尙ほ地代又は高い利潤の形式に於ける土地の或る本質的餘剰生産物が存在し得ない、と云ふ事は明瞭である。

同様に、若しも生活必需品——土地の最も重要な生産物が、その増加した分量と比例を保つて居る所の需要の増加を創造する財産でなければ、さう云ふ種類の増加分量は、その交換價値の低落を惹き起すであらう、と云ふ事は明かである。一國の生産物は、それが如何に豊富であらうとも、その人口は靜止的であらう。而して、それに比例する需要を有せずして、斯くの如き事情の下に於いて當然に生ずべき高價なる労働の穀物價格を伴つて居る所の、此の豊富は、製造品の價格の如く、粗生々産物の價格を生産費にまで低下せしむるに至るであらう。

食物或ひは粗生々産物のみの増加が人口の比例的増加を生ぜしむる事が出來ると想像するのは、人口の理論を誤まるものであると、屢々論ぜられて來た。此の事は、疑もなく、眞實である。けれども、アダム・スミスが正當に觀察した様に、「食物が備つた時には、必要な衣服と住居とを見出す事は比較的容易である。」と云ふ事は認容しなければならぬ。又、土地は一個の物貨のみを生産するものではなく、凡ての物貨の中で最も缺くべからざる所の——食物に加へて、また他の生活必

需品のための資料をも生産する。而して、之等の資料を作りあげるのに要する労働は、固より考察の外に置く事が出来ない、と云ふ事を想ひ起さなければならぬ*。

* 併し乍ら、若しも之等の資料が欠けて居るか、又は財産の不安固或はある他の原因によつてその資料を作り出すのに必要な熟練及び資本の構成が妨げられたならば、耕作者は忽ち彼等の努力を減じ、彼等の生産物を増加し蓄積する動機は大いに減少するであらう、と云ふ事は確かである。然し、此の場合に於ては、非常に不活潑な需要が労働に對して存在する。そして、如何に食料品が名目的に低廉であつても、實際、労働者は人口の増加を惹き起す様な生活必需品(勿論、衣服・住居をも含む)の部分を支配する事が出来ないであらう。

故に、土地は生活必需品を生産し、——食物・資料及び労働を生産し、——人口の増加を實現し、之を支維する唯一不可缺の手段を生産すると云ふ事は、嚴格に眞實である。此の點に於いて、それは人間に知られて居る他の汎ゆる種類の機械と根本的に異つて居る。故に、それには或る特殊なる効果が伴つて居る、と想像するのは當然である。

若しも、我が國に於いて製棉機械が現在の割合、若くはそれ以上の速さで増加を續けるとして、衣服や家具等の或る部分に使用せられる特殊な一個の物を生産する代りに、土地の性質を有し而して多少の労働・節約及び熟練の助けによつて衣食住の資を生産し之等の必需品の増加せる供給に等しき人口の増加を創造する様な比例を保ち得るならば、斯くの如き改良せられたる機械の生産物に

對する需要は生産費以上の超過を續けるであらう、而して此の超過は決して土地の機構には屬しないのである*。

* 此の場合に於て、私は製棉機械の供給に對して或る制限を想像した。若しも、如何なる制限もなかつたならば、その結果は、生産費に對する超過がなく、たゞ過度の利潤及び過度の貸銀としてあらはれるであらう。

人間の生活の支持に絶對的に必要なる物貨に對する需要の原因と、その他の物貨に對する需要の原因との間には、根本的な相違がある。凡ての他の物貨に於いては、需要は生産そのもの、外部にあつて獨立を保つて居る。而して、自然的たると人爲的たるとを問はず、獨占の場合に於ては、價格の超過は、需要に比較したる供給の小量と比例を保つて居る。然るに、此の需要は比較的制限せられてない。絶對的必需品の場合に於いては、需要又は需要者の數の存在及び増加は、之等の必需品それ自身の存在と増加とに依存するに相違ない。而して、生活必需品の價格のその生産費に對する超過は、生産に要する労働を維持するに必要な分量以上の生活必需品の分量の超過に依存し、且つ永久に之によつて制限せられる。此の分量の超過がなかつたならば、自然の法則に従つて生産者を支持するに必要な以上の需要は存在する事が出來ないのである。

『諸國民の富』の新版に於いては、粗生々産物の高價なる原因は、消費を供給に比例せしむるた

めには斯くの如き價格が必要なのである、と述べられて居る*。之はまた眞實である。併し乍ら、問題の要點の解決を與へるものではない。吾々は尙ほ、何故に消費と供給とが價格をして左程にまて生産費を超過せしむるか、を知りたいのである。而して、主要なる原因は、明かに生活必需品を生産する土地の豊饒性である。土地の分量とその豊饒性とを減ぜよ。然らば、超過も亦減ずるであらう。更に進んで、之を減ぜよ。然らば、超過は消滅するに至るであらう。生活必需品の價格が生産費以上に高價なる原因は、その稀少性よりは寧ろその豊富性の中に見出さるべきである。而して人爲的獨占によつて生ぜしめられた高價とは本質的に相違するのみならず、食物と關係なき所謂自然的及び必然的獨占による所の、土地の特殊なる生産物の高價とも著しく異なるのである。

佛蘭西に於ける或る葡萄酒の生産物(ただ、それからのみ、その土壤と位置との特殊性によつて、特殊の芳香をもつ葡萄酒を生産するのである)は、固より遙かに生産費を超過する價格を以つて販賣せられる。而して、此の事は、その供給の僅少に比して斯くの如き葡萄酒に對する競争の大なる事に依るのである。供給の僅少と云ふ事が、その葡萄酒の使用を極めて少數の人に限定するが故に、著しく高い價格を支拂ふ事が出来、且つその葡萄酒なしに濟ますよりは寧ろ著しく高い價格を支拂ふ事を欲するのである。併し乍ら、若しも之等の土地の豊饒性が増加し生産を著しく増加す

るに至るならば、此の生産物は價值に於いて甚しく下落し、最も本質的には生産費に對する價格の超過を減少せしむるに至るであらう。然るに、之に反して、若しも葡萄酒が生産的でなくなつたならば、此の超過は殆んど如何なる範圍にまでも増加するであらう。

* 四卷、三五頁、

之等の結果の明かなる原因は、人爲的たると自然的たるとを問はず、本來獨占と呼ばて居る所の凡てのものに於いて、需要は生産それ自身の外部に在り、それに依存する事がないと云ふ事である。珍らしい葡萄酒を味はんと欲し、それが購買のため進んで競争に参加せんとする人の數は、生産物それ自身が減少しつゝある間にも、殆んど無限に増加し得るであらう。而して、それ故に、その價格は、該競争者の數と力と氣紛れ以外の何物にも制限されることはない。

之に反して、生活必需品の生産に際して、需要は生産物それ自身に依存して居る。従つて、その結果も著しく異つて居る。此の場合に於いては、需要者は此の生産物によつてのみ存在するのであるから、生産物の分量が減少しつゝある間に需要者の數が増加すると云ふ事は物理的に不可能である。前の場合に於いて、生産費に對する價格の超過を減少せしめた所の、土壤の豐饒性、及び土地の或る分量からの生産物の必從的豊富とは、今の場合に於いては斯かる超過の特殊的原因であり、

また前の場合に於いて價格をば生産費を超えて殆んど如何なる範圍にまでも増加せしめたであらう所の減退せる豊饒性は、生活必需品をば永久に生産費を超えざる價格に維持し得る唯一の原因である、と斷言してもはゞからない。

然らば、生活必需品の價格は通常獨占の原則によつて制限されるものである、と考へる事は可能であらうか。シスモンデイ氏と共に、地代をば純粹に名目的なる價值を有する所の勞働の唯一の生産物と看做し、また賣手が特殊なる特權を有する結果として獲得する價格の上騰の單なる結果と看做し、或はまたブカナン氏と共に、國民的富への附加ではなく、單に地主にのみ利益を與へ、之に比例して消費者に有害なる所の價值の轉換と考へる事が出来るであらうか。

反對に、地代は神が人間に與へた所の土壤の最も貴重なる性質——即ち、それを耕作するのに必要なる人數以上を支持すに足る性質の明かなる指示ではなからうか。それは、また、土地からの餘剩生産物の一部分(而して、それが絶對的に必要な部分であると云ふ事を、吾々は更に後に研究するであらう)、ではないであらうか*。それが、凡ての力と快樂との源泉であると云はれて來たのは至當である。而して、これなくしては、實に、都市もなく、陸海軍力もなく、藝術もなく、學問もなく、精巧なる製造品もなく、外國の便宜品も贅澤品もなく、且つまた個人を向上せしめ威嚴を附

するのみならずその恵まれたる感化を全群の人間に及ぼす所の開化せる上品なる社會も存在する事が出来ないであらう。

* 茲に言及して居る最も一般的なる餘剰とは、農夫の利潤並に地主の地代を包含する事を意味する。そして、それ故に、直接に使用せられない人々を支持する爲の全基金をも包含する。實際に於いて、利潤は如何なる點に於ても（エノミストによつてほのめかされた様に）資本の所有者達の欲望及び必要に比例して居るものでないから、それは餘剰である。然し、利潤は社會の進展に於て地代とは異つた行路をとり、一般にそれを別にして置く事が必要である。

社會の初期、即ちもつとはつきり云ふと、多分舊社會の知識と資本とが新鮮なる豐饒地の上に使用せられる時に於いては、此の餘剰生産物、即ち神の澤山なる賜物は、著しく高い利潤と著しく高い賃銀としてあらはれ、地代の姿をとつては殆んどあらはれない。豐饒なる土地が充分で、土地を求める者は誰でも土地を持つ事の出来る場合には、地主に對して地代を支拂ふ者のない事は勿論である。併し乍ら斯かる状態が繼續すると云ふ事は、自然の法則及び地球の制限・性質と相容れないものである。何れの國にも必ず土壤及び位置の様々なる種類が存在するに相違ない。凡ての土地が最も豐饒であると云ふ事はあり得ない。又、凡ての位置が航行可能の河川或ひは市場に最も近いと言ふ事はあり得ない。併し乍ら、最も自然的豐饒性に富み、位置上の最大便益のある土地に使用せられる資力より以上の資本の蓄積は、必ず利潤を低下せしめなければならぬ。一方、生活資料以

上に増加する人口の傾向は、一定の時を經過したならば、労働の賃銀を低下せしめなければならぬ。

生産出費は、斯くして減少する。しかし、生産物の價值、即ち労働の分量並びに價值が支配し得る所の、穀物以外の、他の労働の生産物の分量は、減少させられる代りに、増加させられるであらう。そして、生活資料を要求し、且つ彼等の勤勞が役立つ方面なら如何なる方面にでもそれを喜んで提供する人々の數が増加するであらう。それ故に、食物の交換價值は、その當時に於ける實際の利率に従ふ所の土地に投ぜられた資本の充分なる利潤をも含む所の、生産費を超過するに至るであらう。そして、此の超過が即ち地代である。

之等の地代が、資財の利潤の一部分として、或は労働の賃銀として、永久に存續する事は、可能ではない。若しも、決定的に資財の一般的利潤を低下せしめ、従つて一層貧弱なる土地を耕作するに足らしむる程、耕作の出費を低下せしむるが如き蓄積が行はれたならば、より富める土地の耕作者は、若しも彼等が地代を支拂ふ事がなかつたならば、彼等は最早單なる農夫、即ち農業的資財の利潤によつて生活する人々たる事をやめるであらう。彼等は、百姓と地主との性質を結合するであらう、——斯かる結合は決して稀な事ではない。けれども、それは地代の性質或はその利潤との本

質的分離を變更するものではない。若しも、資財の一般利潤が二〇%であり、土地の特別なる部分
が使用せられた資本に對して三〇%を擧げるならば、何人が受取るにも拘らず、三〇%の中の一〇
%は明かに地代である。

時としては、實際に、悪政、法外なる慣習及び誤れる社會の組織等の結果として、豊饒なる土地
が可成り豊富であるにも拘らず、資本の蓄積が停止する場合がある。此の場合に於いては、利潤は
永久に高率で存続するであらう。が、此の場合に於いてさへ、賃銀は必ず低落を來し、耕作の出費
を減少する事によつて、地代を發生せしむるに相違ない。社會の進歩に於いて、賃銀の低落程絶對
的に避け難いものはない。それは、勞働階級の慣習と相結合して、生活維持の手段によつて、人口
の増進を制限する様な低落である。而して、資本増加の缺乏から生産物の増加が阻害され、生活維
持の手段が行き惱みの状態に立ち至る時、勞働の賃銀は著しく低下し、漸く現存人口を維持し、そ
れ以上の増加を妨止するに至る。

従つて、例へばポーランドの如く、蓄積の缺乏から、資財の利潤が高率に存続し、耕作の進歩が
遅々たるか或は全く停止して居る様な凡ての國にあつては、勞働の賃銀が極端に低いと云ふ事を、
吾々は觀察する。而して、勞働の此の低廉は、勞働の關する限り、耕作の出費を減少せしむる事に

よつて、資財の高い利潤の結果に反逆し、一般にアメリカの様な國に於けるより以上に地主に對して大なる地代を産む。アメリカでは、今尙ほ利益ある仕事及び生産物並びに人口の適當なる増加を伴ふ所の大なる労働の需要を見出す事が出来る所の、資財の急速なる蓄積によつて、利潤は低下する事が出来ない。そして、労働は可成りの期間非常に高く留つて居る。

故に、或る國民が相當の程度の富に達し、また相當に人口の充満を來す時、（それは固より資財の利潤及び労働の賃銀の一大低落を伴はずに起る事はないのであるが）或る性質の土地に於ける一種の定着物としての地代が分離すると言ふ事を、重力の原則にも變らない眞理として、斷言する事が出来る。而して、その地代は、單なる名目上の價值でもなく、また一團の人々から他の一團の人々に不必要且つ有害に移された價值でもなく、國民的財産の全價值の最も眞實且つ必要なる部分であつて、自然の法則によつてその土地の上に置かれたものであつて、その土地の所有者が地主であるか國王であるか或は實際の耕作者であるかは問ふ所でない。

茲に於て、地代は、土壤の及びその生産物の或る性質の結果である所の、土地から生ずる一般的餘剰と同じ性質のものに辿られたのである。而して、その國が富と人口とを自然的に増加するに従つて、豊饒なる地域が比較的稀少となるが爲めに、利潤と賃銀とが低落し初めるや否や、地代は利

潤から分離し始める事がわかつた。

既に、地代の性質と起源とを研討した上は、地代の支配せられる法則及びその増減を決定する法則の研究が、吾々に残されてある。

資本が蓄積して一國の最も適當なる土地に労働が落ちた時には、豊饒性及び位置に關してこれに劣る他の土地も有利に使用される。利潤をも含む所の、耕作の出費が低落すれば、より貧弱なる土地或は一層市場を遠去る所の土地は、最初何等の地代をも擧げないにしても、充分に之等の出費を補ひ、耕作者に何等の損失をも蒙らしめない。而して、また、資財の利潤或は労働の賃銀の一方或は此の兩者が更に低落したならば、更に貧弱なる土地或は一層地の利を得ざる土地も耕作せられるに至るかも知れない。而して、之等の各階段に於いて、若しも生産物の價格が低落しなければ、地代が上騰する事は明瞭である。而して、労働階級の勤勉と巧妙とが土地の上の勞務に服して居ない人々の資本に助けられて、耕作者及び地主に對して交換として與ふべき或る物を見出し得る限り、それは彼等の農業上の努力を減ずる事なく繼續せしめ、且つ増加する所の生産物の超過を維持せしむるが故に、生産物の價格の低落する事はあるまい。

地代の騰落を支配する法則を一層詳細に辿るに當つて、耕作の出費を減じ或は生産物の價格に比

較して生産手段の費用を低減させる主要なる原因は、殊に更に列擧する必要がある。その重なるものは、次の四つの様に思はれる。——第一に利潤を低下せしむるが如き資本の蓄積、第二に賃銀を低下せしむるが如き人口の増加、第三に一定の結果を産出するに必要な労働者の數を減少するが如き農業上の改良若くは勤勞の増加、及び第四に生産出費を名目上低下せしむる事のない様な需要の増加による農業生産物の價格の騰貴、が出費と生産物の價格との間の差額を増加せしむるであらう。

生産物の價格に比較して、耕作の出費を低下せしむる最初の三原因の作用は極めて明かである。第四のものに就いては、更に二三觀察を要する。

或る特定國家の粗生々産物に對して四圍の國民の間に大なる繼續的需要が生ずるならば、此の生産物の價格は固より著しく上騰するであらう。而して、耕作の出費はたゞ緩徐に同じ比例で上騰するから、生産物の價格は永い間著しく先に進み、改良に對して著しい刺激を與へ、新しい土地を開墾するために多くの資本を用ひる事を奨勵し、舊來の土地をして一層生産的ならしむるに至る。

又、自國の國民を養ふ事を續けて來た國に於いて、若しも粗生々産物に對する需要の代りに製造品に對する需要が同様に増加したとしても、その結果は根本的に異なるものではない。之等の製造品

は、若しも斯かる需要のためにその總額の價值が外國に於いて著しく増加したならば、多大なる價值の増加を返報として齎らすであらう。此の價值の増加は當然に粗生々産物の價值を増加するものである。製造品は勿論、農産物に對する需要も増加されるであらう。そして、最後の場合に於ける程の範圍には及ばないとしても、土地の上に於ける汎ゆる種類の改良に對して可成りの刺激を與へるであらう。

又、新機械の紹介及製造工業上の一層思慮ある分業によつても、同様の結果が生ずる。此の場合に殆んど常に生ずる事は、單に製造品の分量が著しく増加するのみならず、その低廉なるがために生ずる所の需要の大擴張によつて、全量の價值も亦増大される。その結果、吾々の見る所によれば、凡ての富裕なる製造工業國及び商業國に於ては、製造品及び商業的生産品の價值が粗生々産物に對して著しき高率を維持して居る*。然るに内外交易の不振なる比較的貧弱な國にあつては、粗生々産物の價值が、その國の富の殆んど全部を構成して居る。若しも、吾々が勞働の賃銀が生産物の上騰と共に昇騰し、勞働者に對して以前と同様の生活維持の手段を支配する事を得せしめると想像し、尙ほ若しも彼が一定量の穀物の價格を以つて内外の必需品及び便宜品をより多く購入し得るならば、假令勞働の賃銀は生産物の價格に比例して上騰しなくても、彼は同様に充分の衣食住を得

て、人口も亦増加を奨励せられるであらう。

* コーフウン氏の推定に従ふと、我が國の内外交易並に製造品の價値は、粗生原料を除くと、土地から引出されたる大なる價値と殆んど等しい。恐らく、他の如何なる大國に於てもさうであらう。——『英帝國の富、權勢及び資源に就ての論說』九六頁。年々の全生産物は、約三五〇百萬、農業の産物は約二一六百萬と評價せられて居る。

而して、極めて稀な例であり、且つ労働者に對する需要が優越し或は尠くとも生産物に對する需要と全く同一である場合にのみ起り得る事であるが、實際に労働の價格が生産物の價格に比例して騰貴する場合に於てさへも、生産物の價格と生産費との間の差額が増大させられる所の相當に繼續する時期が生ずると云ふ事は不可能であるから、十分一税・教區税・租税・肥料及び前の低い價格の下に於いて蓄積せられたる固定資本の結合體の様な、その中に資本が費されて居る所の其他の凡ての支出は、同一の比例に於いて、同時に、正確に上騰すべきである。

之等の中の或る場合に於いて、生産手段の費用と比較しての農産物の價格の増加は、單に一時的であると云はれたものから生ずる様に思はれる。而して、之等の場合に於いては、それ自身が餘り地代と云ふ形式で表はれる事なく、農業的利潤の増加と云ふ事によつて、耕作に對する著しい刺激を與へる事となるであらう。併し乍ら、結局地代の上騰を來すと云ふ事は殆んど避ける事が出來な

い。大なる一時的利潤を獲取する機會が出現した結果として使用せられた増加せる資本は、現在の借地契約が満期となつても、殆んど或は全然之をその土地から移動する事が出来ない。而して之等の借地契約の更新と共に、地主は自己の地代の増加の中に此の利益を感ずるのである。

右に述べた四原因の作用によつて、生産物の價格と生産手段の費用との差額が増加する時には、常に地代は騰貴するであらう。

されど、凡て之等四個の原因が同時に作用すると云ふ事は必ずしも必要ではない。たゞこゝに述べた所の差額が増加しさへすれば足りるのである。若しも例へば生産物の價格が上騰し、之に反して労働の賃銀及び資本の他の部門の價格が之に比例して上騰せず且つ同時に改良せられたる耕作方法が一般に使用せらるゝに至つたならば、農業的資財の利潤が減ぜざるのみならず却つて決定的に一層高く上騰するとしても、その差額が増加する事は明瞭である。

過去二十年間我國に於いて土地の上に使用せられた資本の大なる追加的分量の中、その大部分は、土壤の上に生じたものであつて、商業とか製造工業とかゝら齎らされたものではない、と想像せられて居る。而して、それは、疑もなく、非常に迅速に非常に有利に蓄積の手段を供した所の資本の他の部門に於ける比例的上騰によつてたゞ緩漫に従はれたる耕作方法の改良及び價格の絶えざ

る上騰によつて生じた農業的資財の高い利潤であつた。

此の場合に於いては、假令生産手段の中の一個、即ち資本がより高價であつても、耕作は擴張し、地代は上騰する。

同様にして、利潤の低落及び農業の改良或ひは又兩者の一方でさへも、賃銀の上騰にも拘らず、地代を上騰せしむる事があるであらう。然らば、一般的眞理として、地代は生産物の價格と生産手段の費用との間の差額が増加するに従つて當然上騰するものと云ひ得るであらう。

尙ほ且つ、既に耕作せられて居る土地の地代が上騰し、又は上騰を許すにあらざれば、新しい土地は耕作せらるゝに至らない事も明かである。

劣等の土地をして一定の生産物を擧げしむるには、多大の資本を必要とする。而して、若しも此の生産物の眞實價格が現行利率を含む所の生産費を充分に償はないならば、その土地は耕作されずに残つて居なければならぬ。此の補償が生産手段の貨幣價格の比例的増加を伴はずに、粗生々産物の貨幣價格の増加によつて達成せられても、或は又生産物の價格の比例的低減を伴はない生産手段の價格の低減によつて達成せられても、孰れでも良い事である。絶對的に必要な事は、劣等なる土地から一定の生産物を得るに必要な生産手段の分量を償ふに足る生産手段のより大なる相對的低

廉と云ふ事である。

されど、前述の諸原因の一若くはそれ以上の作用によつて、生産手段が低廉になり、生産物の價格と耕作の出費との間の差額が増加する場合には、何時でも、地代は當然に上騰する。それ故に、直接且つ必然的の結果として、既に耕作せられて居る土地の地代が上騰し或は上騰を許すに非らざれば、新しい劣等地を開墾する事は割に合はないのである。

同一の諸原因の作用による所の、地代の上騰に對する同様なる傾向がなかつたならば、古い土地の開拓に新しい資本を投ずる事は割に合はない、——尠くとも各々の畑は既に實際の利率に従つて利益を生じ得べき最大の資本が投ぜられて居ると云ふ推定に於ては。

唯その眞理なる事を明かにするために、此の命題を述べる必要があるのみである。農夫が農業的利潤の實際の利率に於いて自己の畑の上に使用し得る凡ての資本をもつて居ないと云ふ事は、確かに起るであらうし、又屢起るものである、と私は思ふ。併し乍ら、彼等農夫が假令その様な資本を有すると想像しても、上に列擧した諸原因の一又はそれ以上の作用によつて地代が上騰する傾向がなかつたならば、明かにそれ以上の資本を損失なしに使用する事が出来ないのである。

然らば、新しい土地の耕作及び古い土地の改良による耕作擴張力及び生産物増加力は、全く實際

の耕作状態に於いて生産費と比較して地代を上騰せしむる様な價格の存在による。

併し乍ら、假令耕作を擴張する事が出来ず、又一國の生産物を増加する事が出来ないとしても、地代の上騰を許す様な状態にあつては、此の地代の上騰は決して耕作の擴張或は生産物に比例しないものである、と云ふ事を注意するのは重要な事である。生産手段の價格に於ける相對的低落は、その度毎に可成りの額の追加的資本の使用を許すであらう。而して、新しい土地が耕作せられるか又は古い土地が改良せられる時には、假令地代の増加が瑣細であつても、生産物の増加には顯著なものがある。その結果、吾々は一國が高い程度の耕作へと進展して行く間に、その土地に使用せられる資本の額及びその土地から擧げる事の出来る生産物の分量は、耕作方法の特別なる改良によつて相殺せられなかつたならば、地代の額に對して常に増加する所の比例を保つと云ふ事を發見する*。

* スコットランドの耕作者のために、彼等は彼等の資本を非常に巧みに且つ經濟的に使用したもので、同時に彼等は非常に生産物を増加し、地主の生産物の分前を増加したと云ふ事が觀察されなければならぬ。スコットランドの地主の生産物の分前と英蘭の地主のそれとの差額は極めて著しい、——自然的土壤或ひは十分一税・救貧税のない事によつて説明される事が出来るよりも非常に大きい。——ジョン・シンクレイア卿の價值ある『スコットランド農業の報告』及び最近發行された『一般的報告書』參照。——之等の著作は、農業的題目に就いて、最も有益にして興味ある報告を以つて滿されて居る。

最近、農務省に對して提出せられたる報告によれば、全生産物の價値に對して地代が有する所の平均比例は五分の一を超過しない様である*。然るに、嘗つて使用された資本も少額であり、生産物の價値も僅少であつた頃に於いては、此の比例は四分の一、三分の一或は五分の二にさへも及んだ。併し乍ら、尙ほ、生産物の價格と耕作の出費との間に於ける數字上の差額は改良の進歩と共に増大する。而して、假令地主は全生産物のより、少なき分前を得るにしても、尙ほ此のより、少ない分前は、生産物の著しい増加によつて、より、大なる分量を生じ、且つ彼をして穀物と労働とをより、多く支配せしめる。若しも土地の生産物が六と云ふ數によつて代表せられ、地主がその四分の一を有するとするならば、彼の分前は一・五によつて表はされるであらう。若しも土地の生産物が十であつて、地主がその五分の一を有するならば、彼の分前は二によつて表はされるであらう。故に、後の場合に於いては、全生産物に對する地主の分前の比例は大いに減少した雖も、彼の眞實地代は、名目上の價格とは關係なく、三から四と云ふ比率に於いて増加するであらう。而して、一般に増加する生産物の凡ての場合に於いて、生産物に對する地主の分前が同率で減少しないならば——それは借地契約の行はるゝ間には屢々起る事であるが、その更新に當つては極めて稀であるか或は全く起らない事である——土地の眞實地代は上騰するに違ひない。

*アーサー・ヤングの『上院報告書』六六頁參照。

故に、地代の増進的上騰は、新らしい土地の進歩的耕作と古い土地の進歩的改良とに、常に必ず、關聯して居る事を見るのである。しかも此の上騰は、繁榮と富との最も確かなる表示たる四個の原因、——即ち、資本の蓄積、人口の増加、農業の改良、及び製造業及び商業の擴張によつて生じた粗生々産物の高い價格の作用、の自然的且つ必然的の結果である。

他方には、地代の低落は、常に必ず劣等なる耕作地の放棄及び優良地の繼續的衰頹とに極めて必然的に關聯して居る様に見えるであらう。しかも、それは、貧窮と衰頹との明かなる表示たる原因、即ち減少せる資本、減少せる人口、劣悪なる耕作組織及び粗生々産物の低廉なる價格の自然的且つ必然的の結果である。

若しも、耕作は、生産出費と比較して地代の増加を許す様な價格の状態の下に於いてでなければ、擴張することが出来ないと云ふことが眞實であるならば、地代の低落を來す様な相對的價格の下にあつては、當然に耕作も衰頹しなければならぬ、と云ふ事を伴ふ。若しも生産物の價格に比較して生産手段がより高價となるならば、それは生産手段が比較的稀少となつた事の明かなる徴候である。而して、貧弱なる土地の耕作に於けるが如く、多量の生産手段を要する場合には、その生

産手段を得る資力が不足し、従つてその土地の使用は放棄せられるであらう。

耕作の進歩及び地代の増加に當つて、凡ての生産手段の價格が同時に低落すると云ふ事は、必ずしも必要ではなく、假令、資財の利潤或は労働の賃銀がより低くはなくより高くても、生産物の價格と耕作の出費との間の差額は増加するであらう。

同様に、一國の生産が衰頽し、地代が低落しつゝある時には、凡ての生産手段がより高價であると云ふ事は必ずしも必要ではない。衰頽せるか或は停滯せる國に在つては、最も重大なる生産手段、即ち労働は常に低廉である。併し乍ら、此の労働の低廉は資本の高價から起る不利益を相殺しない。その不利益と云ふのは、耕作の劣悪なる組織、及び就中労働に加へて耕作に必要な經費の價格に於けるより以上に粗生々産物の價格が低減する事である。

又、耕作及び増加せる地代の増進に於いて、地代は、假令積極的の額に於いてはより多くとも、その土地に使用せられた資本の額及びそれから引出される生産物の分量に對して少ない比例、即ちより少ない比例を保つ、と云ふ事が現はれて來た。同一原理に従ふと、生産物が減少して地代が低減する時には、地代の額は常により少ないであらうが、それが資本及び生産物に對して有する比率は常により大となるであらう。而して、前の場合に於いて、地代の低減率は、年々劣等なる新し

い土地を耕し、又は資財の普通の利潤を擧げる事の出来る場合には、殆んど又は全く地代なしに、常に必ず古い土地の改良を行ふと云ふ事に、起因する。故に、後の場合に於いて、地代の高率は大なる経費が必要な場合には常に生産物を得る事が不可能であると云ふ事、及び一國の減少せる資本を必ずその國の最も豊かなる土地の特別耕作のみに用ひる事に歸するのである。

かるが故に、價格の相對的狀態が地代の遞進的低落を起す様な時には、さう云ふ割合で非常に、多くの土地が漸次耕作を放棄せられ、その残りは一層粗惡に耕作せられ、而して生産物の減少は地代の減少よりも一層速かに進むであらう。

若しもこゝに述べた地代の上騰及び低落を支配する法則に關する學理が、眞理に近いとするならば、その時には、若し農業生産物がより少ない正味餘剰を擧げる様な價格で賣られたならば、農業は一般資財に對して同様に生産的である、と主張する所の學説は、眞理を遠去る事遙かであるに違ひない。

實際、私自身の信ずる所によれば、地代を生ぜしむる所の粗生々産物の高い價格が、地主に對して有利であると同時に消費者に對して有害である、と云ふ印象の下に、若しも富裕にして進歩せる國民が、何處にも地代と云ふ姿で餘剰を留めないまでに法律によつて生産物の價格を低下させられ

たならば、その國民は必ず凡ての貧弱なる土地のみならず最も上等の土地以外の凡ての耕作を放棄し、その生産物及び人口を前の分量の十分の一以下に減ずるであらう。

地代の増進に關する前述の説明から、土地の自然地代の實際狀態は實際の生産物に對して必然である云ふ事があらはれて來る。又、凡ての進歩的國家にあつては、生産物の價格は、實際上使用せられて居る最も貧弱なる性質の土地に於ける生産費、又は殆んど或は全く地代を伴はない農業的資財の通常の報酬のみを擧げる所の古い土地に於いて附加的生産物を收むる費用に等しくなければならぬ。

價格がそれ以下であり得ない事は極めて明瞭である。然らざれば、斯くの如き土地は耕作せられないであらう。又、斯くの如き資本は使用せられないであらう。又、此の價格を大いに超過することもあり得ない。何となれば、段々と耕作せられて行く貧弱なる土地は、最初は殆んど或は全く地代を生じないし、又資本を支配する事の出来る農夫は、若しもそれから生ずる追加的生産物が、假令地主に對して何物をも生じなくても、自分の資財の利潤を充分に償ふならば、常に割に合ふものであるからである。

然らば、收穫したる全量に關して、粗生々産物の價格は、自然的價格又は必要價格、即ち生産物

の實際量を得るに必要な價格に於いて賣らるゝ事となる。假令、此の場合、その大部分が必要生産費よりも遙かに高價に販賣せらるゝ事があつても、それは、交換價値が減じないのに、此の部分がより低廉なる出費で生産された事に因るのである。

自然的價格又は必要價格に關して、穀物の價格と製造品の價格との間の差額は次の様である。即ち、若しも製造品の價格が著しく壓迫せらるゝと、全生産は全然破壊せられるであらう。それ故に、若しも穀物の價格が著しく低下しても、此の場合にはその分量のみが減少するに止まる。その國內には減少したる價格を以つて尙ほ此の物貨を市場に送り得る何等かの機械が存在するであらう。

地球は、食物其他の粗生々産物を生産するために、自然が人間に與へた一大機械である、とは屢々譬へられて來た所である。けれども、此の比較を一層正確に表はさうとするならば、吾々は土壤を以つて人間への贈物たる一大多數の機械であり、資本の使用によつては常に繼續的改良をなし得るが、その本來の性質及び力に於いては非常に異なる所の、人間への贈物たる一大多數の機械である、と思惟しなければならぬ。

粗生々産物の獲得に使用せらるゝ機械の力に於ける此の大なる不平等は、實に土地の機械と製造

業の機械とを區別する大なる特徴の一を構成するのである。

以前よりも、少ない労働と費用とを以つて一層精巧なる製造品を生産する製造業の機械が發明せらるゝ時には、若しも特許が存在しないか或は該特許が消滅するや否や、全需要を充すに充分なる數の該機械が製作せられ、舊式機械の使用を全然不用ならしむるであらう。その當然の結果として、價格は最善の機械による生産の價格にまで減少し、若しも其の價格が更に壓迫せらるゝならば、該物貨の凡ては市場から撤回せらるゝに至るであらう。

之に反して、穀物及び粗生原料を生産する機械は、自然の賜物であつて、人間の作物ではない。且つ、我々は、經驗によつて、之等の賜物が著しく異つた性質と力とを持つて居る事を見出す。製造業に於ける最善の機械の様に、最少の労働と資本とを以つて最大の生産物を收むる所の一國の豊饒地は、決して増加する人口の有効需要を充すには充分でない。それ故に、粗生々産物の價格は、それ等の生産物が劣等なる機械と最も出費の多い過程とによつて生産する費用を償ふに足るに至るまでは當然に上騰する。而して、同質の穀物には二個の價格が存在し得ないから、その生産物に比してより、少ない資本を以つて足る所の凡ての他の機械は、その善良性に比例して地代を齎らさなければならぬのである。

斯くの如く、粗笨的な國は何れも穀物及び粗生原料を生産すべき各段階の機械を有するものと考へる事が出来る。そして、此の段階の中には、廣大なる領域には一般に多く存する所の様々なる性質の劣等地のみならず、優等地が益々附加的生産物の産出のために強用せらるゝ時に用ひられるとも云はるべき劣等なる機械をも包含して居る。粗生々産物の價格が上騰を續けるにつれて、之等の劣等なる機械は相續いて活動するに至り、而して粗生々産物の價格が低落するにつれて、それ等の機械も活動を停止するに至るのである。茲に示した例は、直ちに實際の生産物に對する穀物の眞實價格の必然性、及び或る特殊なる製造品の價格の大低落、並びに粗生々産物の價格の大低落に伴ふ所の異なる結果を示すものである。

私は更に實際に生産せられたる分量に關しては、穀物は製造品の様に、その必要價格を以つて販賣せらるゝと云ふ原則を、様々なる形式に於いて讀者に提供し、更に少しく細説する事を宥してもらひたい。何となれば、私は、之を以つて最も重大なる眞理と看做すのみならず、エコノミスト、アダム・スミス、其他粗生々産物は常に獨占價格で賣られるとなして居る凡ての學者が此の點を看過して居るからである。

アダム・スミスは、富及び改良の増進が如何なる方法で穀物に比して家畜・家禽・衣服及び住居

の諸資料、その他最も有益なる諸鑛産物の價格を騰貴せしむる傾向を有するか、と云ふ事を明かに説明した。併し乍ら、彼は穀物の價格を決定する傾向のある自然的原因の説明には立入らなかつた。實際、彼の説を推測する時、讀者は次の様な結論に達するの外はない。即ち、穀物の價格は、現に商業界の流通手段を提供する所の鑛山の状態によつてのみ決せられる、と。けれども、これは、互ひに遠く離れて居ない國々、又は鑛山から殆んど同距離にある國々の間に於いて觀られる所の穀物の價格の實際的差額を説明するには明かに不適當なる原因である。

私は、高い價格の原因を研究する事は、大いに有用であるとの説に就いては、彼に全く同意する。何となれば、斯かる研究の結果として、吾々が不平を云つて居る所のその事情と云ふものは、富及び繁榮に伴ふ必然の結果であり、且つその最も確實なる標識である、と云ふ事が示されるから。併し乍ら、此の種類の方々の研究の中で、穀物の價格に影響し、而かも異なる諸國間に屢々見られる所の價格の相違を惹き起さしむる諸原因の研究程、重要であり且つ一般的に興味の深いものなる。

私は躊躇する事なく云はう。一國に於ける通貨の不規則* 及び其他の一時的偶發的事情には關係なく、穀物の高價なる比較的貨幣價格の原因は、その高價なる比較的生産出費〔原文には眞實價格

と書いてあるが、それは書き誤りである——譯者註」或ひはそれを生産するために使用しなければならぬ資本と労働との多量なる事である。而して、既に富み且つ繁榮と人口の増殖を續けつゝある諸國に於いて、何故に穀物の眞實價格がより高く且つ繼續的に上騰しつゝあるかと云ふ原因は、常に劣等地に頼る事が必要であると云ふ事、——それを使用するのにより大なる經費を要する機械に頼ること——その結果、その國の粗生々産物の新しい附加分の各々がより大なる費用で購買せられなければならぬ事、に存するのである。約言すれば、それは、進歩的國家に於ける穀物は實際の供給を生ぜしむるに必要な價格に於いて賣られ、且つ此の供給が益々困難となるに伴れて、價格も之に比例して上騰する、と云ふ重要な眞理の中に見出されなければならぬのである**。

* 吾々の議論の凡てに於いて、吾々は出来るだけ、通貨の餘剰から生ずる高い價格の部分をば、自然的且つ恒久的原因から生ずる部分から分離する事に努めなければならない。此の主張の全行程に於いては特にさうする事が必要である。

** 私は、進歩的國家、即ち増加する人口を支持するために、年々より大なる資本が土地の上に使用せられる事を要求する國に於ける事を述べたのである、と云ふ事を注意しなければならない。若しも、新資本、人口の増加、及び凡ての土地が優良であること云ふ事に就いて何等の疑問がなければ、その時には穀物が必要價格に於いて賣られなければならないと云ふ事は眞理ではあり得ないであらう。眞實價格は減少せられるかも知れない。そして、若しも土地の地代がそれに比例して減少したならば、耕作は前と同様に行はれて、同じ分量が生産せられるであらう。併し乍ら、實際占有せられて居る一國の凡ての土地が優良であり、優良なる正味地代を生ずると云ふ事は、殆んど起り得ない事である。そして、凡ての場合に、物價の低落は借地契約の行

はれて居る間に農業資本を破壊する。そして、その契約の更新に於いては、同じ力の生産は存在しないであらう。

之等の原因によつて決定せらるゝ穀物の価格は、固より其他の事情によつても大いに制限せらるであらう。直接間接の課税、耕作方法の改良、土地の上に於ける労働の節約、及び特に外國穀物の輸入等が、之である。就中、後の原因の如きは、大なる富が穀物の価格の上に及ぼす通常の効果をも減却せしむる事がある。而して、此の富は其の時別の形式となつて現はれるであらう。

次に、吾々は、相隔る事遠からず且つ鑛山に對する位置も著しく異なる所の七八個の大國を想像して見よう。更に、その土壤及び農業上の熟練も著しく異なる事なく、その通貨は自然的状態に在り、何等の課税なく、穀物以外の交易は凡て自由であると想像しよう。所で、その一國が資本と製造上の熟練とに於いて著しく他に優り、その結果富と人口とを増加したと想像しよう。然る時は、私は、斯様な富の大なる比較的増加は、粗生々産物の価格の大なる比較的上騰なくしては起り得ない、而かも此の價格の上騰こそは、上に想像した條件の下に於ける當該國の増加せる富と人口との當然の徴候であり、絶對的に必然の結果である、と言ふ可きである。

又、以上の國々が最も完全なる穀物交易の自由を有し、運賃其他の出費は全く些細なものであると想像しよう。又、その中の一國が製造業上の資本及び熟練、富及び人口に於て、著しく他に優つ

て居ると想像しよう。さうすると、私は穀物の輸入が粗生々産物の價格に於ける大なる差額を防止する時には、それは土地に投ぜられた資本の額とそれから收穫せられた穀物の分量との大なる差額を防止すると云ふ事、従つて、富の大なる増加は穀物に就いて大いに他國に待つ事なくしては起り得ないと云ふ事、及び上述の條件の下に於て、斯くの如く他國に依頼すると云ふ事は當該國の増加せる富及び人口の自然的徴候であり、絶對的に必然なる結果であると云ふ事、を言はなければならぬ。

之等の二者の其一は、富の大なる比較的増加に必然的に伴ふものである、と私は思ふ。而して、此の推測を適當の制限を以つて歐洲の狀態に適用する。

歐洲に於いては、穀物運搬の出費が屢々著しく高率である。その事が輸入の自然的妨害となつて、慣習的に外國の穀物に依頼する國でさへも、粗生々産物の價格を一般的標準よりも可成り高くしなければならぬ。實際、又、歐洲諸國に於ける粗生々産物の價格は、異なる土壤、課税の程度、農業的科學の進歩の度合等によつて、種々に制限を受けるであらう。重税と貧弱なる土壤とは、粗生々産物の價格を比較的高價ならしめ或は大なる富と人口とを有せず外國に大いに依頼しなければならぬ。然るに、農業の改良と優良なる土壤とは、生産物の價格を低くし、その國をして可成

りの富を有するにも拘らず、外國の穀物から獨立せしむるであらう。併し乍ら、上述の原則は此の問題に對する一般的原則であつて、之を特殊の場合に適用するに當つては、それ／＼その場合の特殊なる事情を常に考慮に入れなければならない。

同様なる土壤にあつては、生産物の増加に比して價格の上騰を遅延せしむる大原因をなして居る所の、農業の改革に關しては、時折それが非常に有力なる場合もあるけれども、劣等地又は劣等機械にまで適用する必然性を比較清算するのに充分なるは稀である。此點に於いて、粗生々産物は根本的に製造品と異つて居る。

製造品の生産出費「之も亦、原本には、眞實價格と誤記されて居る、——譯者」、即ちその一定量を生産するに必要なる労働と資本との分量は、殆んど恒常的に減少しつゝある。然るに、富裕にして進歩しつゝある國の粗生々産物に對する最後の附加的粗生々産物を得るに必要なる労働と資本との分量は、殆んど恒常的に増加しつゝある。その結果、吾々は次の様な事を知る。即ち、農業の繼續的改良にも拘らず、穀物の貨幣價格は、他の事情にして同一なる限り、最も富裕なる國に於いて最高であつて、穀物の高價、及び従つて生ずる所の労働の高價にも拘らず、製造品の貨幣價格は、尙ほ、貧弱なる國よりもより低く繼續する。

故に、私は、金銀の價値の低い事は、それが起つた國の富及び繁榮状態を示す證據にはならない、と考へる點に於いて、アダム・スミスと意見を同じにする事が出来ない。絶對的に云ふと、勿論、鑛山の豊富と云ふ事以外には、その事から何事も推測する事が出来ない。併し乍ら、相對的に即ち他國の状態を比較して見ると、大いに推測する事が出来るのである。若しも、吾々が貴金屬の價値を異る國々、及び一國內の異なる時期に就いて、穀物及び労働の價格によつて測定するならば、それは採用し得べき最も實際に近似値であると思ふ（而して實際に於いて、穀物はアダム・スミス自身によつて用ひられた尺度である）——頻繁なる商業上の交易を續けて居る國々に在つては、其等の國が鑛山から殆んど同距離にあり且つ土壤を著しく異にして居ない時には、貴金屬の低い價値又は粗生々産物の高い價格より以外に、富と繁榮との確實なる標識又はより必然的なる結果がない、と云ふ事が生ずる様に私には思はれる*。

* 此の結論は、貴金屬の平準に關する學說と撞着する様に見ゆるかも知れない。そして、若しも、平準と言ふ事によつて普通の方法で評價せられた價値の平準が意味せられるならば、それは撞着する。私は、實際、此の學說は諸事實によつては非常に支持せられないものであり、而して、貴金屬と水とを比較する事は全く不精確な事である、と思ふ。貴金屬は常に靜止状態或はその運動を不必要にする様な事物の状態に傾向しつゝある。しかし、此の靜止状態が略々得られ、各國の交換が殆んど平價にある時には、穀物及び労働、或は一群の物貨によつて評價せられたる異つた國々に於ける貴金屬の價値は、實際非常に相違して居る

のである。此の事を信せしむるためには、たゞ交換が平價で行はれる時に於ける英蘭・佛蘭西・波蘭・露西亞・及び印度を觀察する事が必要である。凡ての時、凡ての所に於ける價値の眞の尺度として労働をば提案するアダム・スミスが周圍を見まわして、貴金屬は常に最も富裕なる國々に於いて最もその價値が高いと云ひ得るだらうと云ふ事は、事實の上に彼の理論を基礎付せんとする彼の普通の注意に最もふさはしいものである様に、常に私には思はれた。

吾々は、一國の繁榮状態の最も確實なる證據の一に就いて不平を云ふべきではない、と云ふ事を主張するのは大切な事である。

それは、勿論、粗生々産物の價格の高い事は、富の卓越及び増進の必然的隨伴物であつて、その一なくしては他は存在し得ないと云ふ事が主張せらるべきである^{と云ふ意味ではない*}。

* ヨーロッパの諸國の實際状態及び位置に於いては、より高い價格は、優秀なる増加する富を伴ふに相違ない。

社會の労働階級に關しては、彼等の消費者としての利害は最も關係が深いものと思はれるのであるが、穀物の高い價格は確かに彼等に有害であると驚愕を以つて考へるのは極めて近視眼的見解である^{と云はなければならぬ}。彼等が良い生活をなすために最も必要な事は、彼等の慎しみ深い習慣と労働に對して増加しつゝある需要とである。そして、私は、同様の習慣及び労働に對する同様の需要の下にあつては、穀物の高い價格は、その自然的結果を生ずる時間を許すならば、彼等にとつて不利であるどころか積極的にして疑ふべからざる利益であると云ふ事を、明白に斷言して躊躇

しないものである。労働に對する同一需要を充すためには生産の必要價格が支拂はれなければならぬ。而して、彼等は、假令その價格が高くとも低くとも、生活必需品の同一量を支配し得なければならぬ*。併し乍ら、若しも、彼等が同一量の生活必需品を支配し、そして彼等が上騰したる價格に比例して労働の貨幣價格を受け取る事が出来るならば、穀物に比例して騰貴しない所の、凡ての便宜品及び娯樂品（其の中には、貧乏人によつて消費せられる様な物が澤山ある）に關しては、彼等の状態は、最も著しく改革せられるであらう。

* 此點に關して、吾々は穀物の價格とは相互に獨立であると推定する様な、兩者の間の聯關の欠除に關する議會の報告書に欺かれてはならない。事實、生活必需品の價格は労働を産出する費用である。若しも、それが支拂はれなかつたならば、労働の供給を繼續する事が出来ない。そして、産業及び慣習の變動、並に人口の促進の結果が市場にあらはれる時期との間の相違によつて、常に僅かばかりの變動はあるけれども、尙ほ、労働の價格は穀物の價格と無關係であると推測する事は重大なる誤謬であつて、穀物の價格は直ちにそして完全に労働の價格を支配すると考へなければならぬ。穀物と労働とは、稀には、全く相並んで行進する。しかし、そこには、それ以上には彼等が並進する事の出来ない明かなる限界がある。報告書の中に注意せられて居る賃銀の低落を生ずる所の高價時代に於て、労働階級によつてなされる異常なる勤務に關しては、それに個々人に於て最も價値があり、資本の發生を惠むものである。しかし、人類の中の何人もそれが恒常的であり、弛められないものであると觀ようとは望まない。それは一時的救濟策として最も賞讃すべきではあるが、若しもそれが恒常的に活動したならば、それからその食物の最大限度まで押し進められた所の一國の人口から生ずると同種の結果が出て來るであらう。稀少と云ふ事には何等の源泉もない。幸にして、此の私自身は、出來高拂労働の實際の大擴張と云ふ事を見ない。實際、如何に長くても一日十二時間或は十四時間、

非常によく働く事は、人類にとつて充分な事である。慰勞のための幾らかの休憩は、健康及び幸福にとつて必要であり、かゝる休憩を時々濫用する事は、その使用に對して正確なる主張ではない。

私が如何なる方法に於いて以上の命題を擁護したかを、讀者は觀察せらるゝであらう。食糧品の價格は勞働の比例的上騰なしに、上騰を來す事が屢々あると云ふ事を、私はよく知つて居る。そして、既に他の所で記述して置いた通りであるが、若しも勞働の需要が同率を以つて増加を續け、勞働者の慣習が節制及び勞働の分量に關して變る事がないならば、此の上騰は恐らく如何なる時期の間も起り得ないのである。

茲に懸念すべき特殊の不幸は、勞働の貨幣價格が上騰すれば勞働に對する需要が減少する事である。そして、それが此の傾向を持つて居ると云ふ事は、殊にそれが輸出品の價格を上騰せしむる傾向を持つて居る時には容易に承認せられる事である。併し乍ら、幾多の經驗の示す所によれば、斯かる傾向は他の種々なる狀況によつて相殺せられるか、若くはそれ以上の影響を受けて居る。而して吾々は、吾國が周圍の諸國の價格に比して穀物及び勞働の價格が著しく増大したと云ふ表面上の不利益の下に於いて、猶ほ急速にして大なる外國商業の擴張を目撃した。

之に反して、勞働の貨幣價格が非常に低いにも拘らず、全然それに對して需要の増加を生じない

實例は到る所に豊富である。而して、異なる國々の勞働階級の中に於いて、勞働に對する需要と人口とが靜止的であり而かも製造品及び外國品に比して食料の價格が著しく低い勞働階級程、慘憺たるものはあるまい。假令、價格は如何に低くても、斯かる事情の下にあつて勞働者の分前として正に實際の人口を維持するに足る以上のものは彼の手に落ちないのである。且つ、勞働者の狀態は單に靜止的なる勞働需要のみならず、更に不幸にも自己の有する僅かの餘剰を以つて製造品及び外國品の極く少部分しか支配する事が出來ないと云ふ附加的災禍によつて壓迫せらるるのである。例へば、若しも、靜止的人口狀態に於いて普通の家族が穀物を以つて評價せられたる賃銀の三分の二を必要なる食料品に費すと想像するならば、残りの三分の一が便宜品と享樂物とを多く支配するか或は殆んど支配しないかと云ふ事によつて、貧困者の狀態に一大變化を生ぜしむるであらう。而して、穀物の價格が高ければ高い程、一定の餘剰は殆んど必ずより多くの享樂資料を購買するであらう。

故に、我國に於ける食料品の價格の高低は其國の貧困者の狀態の最も不確實なる標準である。彼等の狀態は、明かに他の更に有力なる原因によるものであつて、穀物の安い國よりも高い國の方がその狀態が屢々佳良であり、或は恐らくより一層佳良であると云ふ事は、殆んど眞實である。

同時にまた、穀物獲得の困難によつて生ずる穀物の高價は、一國の富及び人口の無限の増進に對する終局的制限と考へる事も出来る、と云ふ事が觀取されなければならない。而して、諸國の實際的進歩は、内外の原因による穀物の價格變動の率に支配せられ、そして、人口多くして現在のところ進歩緩慢なる國が後四十年間に急速なる進歩をしないと云ふのは輕卒であらう。けれども、尙ほ穀物と勞働との價格が他國に比して高價なる時には、將來の急速なる進歩の機會が減少する事だけは認めなければならない。

故に、之等の價格は出来るだけ人爲的に——即ち課税によつて増加させてはならない、と云ふ事は重要な事である。けれども、農業資本に課せられる租税は何れも、該資本を以つて新しい土地を耕作し舊い土地を改良する事を阻害する傾向がある。前にも述べた通り、斯かる資本の充用が行はれる前に、生産手段に比して、生産物の價格は農夫の收支を償ふに足るまで充分に上騰しなければならぬ。併し乍ら、若しも打ち勝たなければならぬ困難が、租税のために益々重くなるならば、上述の改良が行はるゝ前に、價格は農夫の收支を償ふのみならず、政府の收支をも償ふに足るまで上騰する事が必要である。そして、農業資本に課せらるゝ租税は何れも、改良を阻害するか或はより高い價格を以つて之を購はなければならない様にする。

新しい借地契約が結ばれた時には、これ等の租税は一般に地主に課せられる。農民は一切の出費を支拂つた後、その國の實際の狀況に於ける農業的資財の平均利潤を自己のために残し得る様な取引をなし、又はなすべきである。その實際の狀況が如何であらうと、又租税——殊に普通なものは財産税——によつて、如何なる方法で影響を受けて居ようと、それは問ふ所ではない。故に、農夫は借地契約の更新に際して地主に對して、より少ない地代を支拂ふ事によつて、特殊なる壓迫から救はれ、通常の利潤を以つて普通の耕作を續けて行く事が出来る。しかし、新資本を改良に投ずる事の奨励は、農夫及び地主の兩者に關聯しては、特に生産手段の價格に比較したる生産物の價格に依存する。而して、若しも之等の生産手段の價格が租税によつて騰貴せられたならば、地代が減少しても何の救助にもならない。實際、それは地代の關聯しない問題である。そして進歩的改良と云ふ點に着眼するならば、地代の全廢よりは農業資本への課税の撤回の方がより有効であると斷言しても誤りはないであらう。

私は、我國に於いて穀物の生産に多大の出費を要することは、その原因が殆んど全く租税の重さにある、と云ふ事が、一般の意見であると信ずる。我が國の租税が耕作の出費及び穀物の價格を増大せしむる傾向のある事は、吾々の疑はない所である。けれども、讀者は、此の研究に於いて述べ

て來た所によつて、私の考が次の様である事を豫知するであらう。即ち、此の價格の一部分、而かも可成り大なる部分の原因は、より深い原因に存し、實に我國がその土壤の素質及び領域の廣さに比して富及び人口が著しく他國に優れて居る事の必然の結果である。

それは、ただ絶えず慣行的に外國穀物を輸入し、國內に於ける耕作を減少する事によつてのみ緩和される事の出来る原因である。斯かる組織に關する政策は既に他の所で論じたが、勿論租稅の減免は何れも如何なる組織の下にあつても穀物の價格を低下し、輸入を益々不必要ならしむる傾向がある。

一國が高度の改良の状態に向つて進むに際して、既に述べた原則に従つて、地主の積極的富は徐々に増加すべきである。尤も、その場合には、より一層重要な餘剩*——資財の利潤によつて生活する人々の富及び人數の増加によつて、地主の社會に於ける相對的狀態及び勢力が寧ろ減少するではあらうが。

* 私は、註に於て、利潤は少しも不穩當な事なく、餘剩と呼ばれるであらうと云ふ事を暗示した。しかし、利潤は、疑ひもなく、蓄積の主要なる源泉であるから、それが餘剩であつても、餘剩でなくても、富の最も重要な源泉である。

多少の例外は別として、全歐洲に通ずる貴金屬の價值の繼續的低落、及び最も富裕なる國々に於

いて土壤から得られる生産物の増加と共に起つた所の、更に大なる低落とは、凡て地主をして借地契約の更新の際に於ける地代の増加を期待せしむるに違ひない。併し乍ら、地主はその農場を二度貸するに當つて、彼自身の利害及び彼の國の利害に對する殆んど等しい偏見から二個の過失に陥りがちである。

第一に、互ひに糶り合ふ所の農夫の提供する眼前の法外なる地代を豫見するため、彼はその土地を最善の方法を以つて耕作し、且つ必要なる改良を加ふるに足る資本を持たない所の借地人に貸與する様に導かれるかも知れない。これは、固より、疑もなく、最も近視眼的政策である。此の事の悪結果は、最も賢明なる土地調査官によつて最近國會に齎された報告書に於いて、強く注意せられた所である。而して、此の事は、此の點に關する地主の不謹慎が、大抵は資力ある借地人を見出す事の實際上の困難と相俟つて、耕作組織改良の上に最も重大なる障害を投じ、且つその國の不満を益々重大ならしめた所の愛蘭に於いて殊に著しかつた。此の過失の結果は、地主に對しては凡ての將來の地代の源泉を失はしめ、國家に對しては生産物の増加から生ずる所の富を失はしめるのである。

地主が陥り易い第二の過失は、單なる一時的價格の騰貴を誤解して、地代の増加を保證する所の

充分なる繼續性のある上騰となす事である。一年若くは二年の稀少或はその他何等かの原因から生ずる異常なる需要は、粗生々産物の價格を到底維持する事の出来ない高さにまで上騰せしむる事があるかも知れない。而して、斯くの如き價格の影響の下にその土地を有する農夫は、單に普通の状態が復歸するや否や、恐らくその農場を放棄して荒廢の状態に遺棄するであらう。斯くの如く高い價格が短期であると云ふ事は、若しも農夫がその高價の短期から利益を享受し得るならば、土地の上に資本を生ぜしむる點に於いて極めて重大なことである。併し乍ら、若しも高價の短期が地主によつて早過ぎる時に於いて捕へられるならば、資本は蓄積せられる事なくして却つて破壊せられる。而して、地主も國家も共に利する所なく、却つて損害を蒙るのである。

價格の上騰が殆んど永久的であるかの如くに見える場合に於いてさへも、地代を擧げるに就いては、同様なる注意が必要である。價格と地代との増進に際しては、單に價格の上騰が一時的であるか永久的であるかを確める手段を提供するのみならず、その上騰が永久的なる場合に於いてさへも地主が結局充分なる利益を確かに感ずる所の土地の上に於ける資本の蓄積に對する時間を與へるために、常に地代は多少價格に遅れて行くべきである。

若しも、土地がその地代の全部を借地人に與へたならば、穀物は一層豊富且つ廉價になると云ふ

事には、信ずべき正當なる理由がない。若しも、前に研究した此の問題に就いての見解が正確であるとするならば、國內生産物に附加へられた最後の生産物は生産費を以つて賣られ、假令地代なしにても、より以下の價格を以つてしては、我が土壤から同一量を生産する事は出来ない。凡ての地代を借地人に移讓する事の結果は、單に彼等を紳士たらしめ、破産の虞によつて注意を怠らず競争に刺激されて努力し不注意な事をしない所の主人の監視の眼を離れて、不注意無關心なる監守人の監督の下に、その土地を耕作せしむるのみである。成功せる産業及び方向を誤らざる知識の最も多い實例は、彼等の土地に對して相當なる地代を支拂ひ、彼等の資本の全體をその事業に投じ、絶えざる注意を以つてそれを監視し、可能なる機會ある毎にそれを加へて行く事を義務と感ずる人々の間に見出された。併し乍ら、此の賞賛すべき精神が借地人の間に擴がる時には、それが蓄積の意思のみならず、力をも持つと云ふ事が、財寶の増進及び地代の永久的増加に對して最も重要な事に屬する。而して、直ちに地代の比例的上騰を伴はざる上騰價格の間隙は、最も有効なる此の種の力を提供するものである。之等の上騰價格の間隙は、その後逆行的運動を伴はない場合には、最も力強い國民的富の増進に貢獻する。そして、實際、私は、一度勤勉と經濟との性格が樹立せられたならば、一時的の高い利潤は、増大せる貯蓄の精神或はその他名指し得る如何なる他の原因よりも、

一層頻繁にして力強き蓄積の源泉である、と云ふ事が出来る*。それは、多年に亘る資財の年々の著しい破壊にも拘らず、我が國に此の世紀の過去二十年間に起つたに違ひない所の、個人間に於ける著しい蓄積——それは、著しく増加した資本を吾々に残した——を説明し得る様に見える唯一の原因である。

* アダム・スミスは、資本家の習慣に於ける高い利潤の悪結果を注意して居る。恐らく、それは、時々奢侈を惹き起すかも知れない。しかし、私は一般に、奢侈の習慣は、奢侈の習慣の高い利潤ではなく、資本の稀少及び高い利潤のより、頻繁なる原因である、と云ふべきである。

往々にして地主を誤導する高い價格の一時的原因の中で、通貨の不規則と言ふ事は注意する必要がある。その不規則が短期間の如くである場合には、それは地主によつて異常なる需要の年と同様に取扱はれなければならない。しかし、それが我國に於いてあつた様に、多年に亘る時には、地主はそれに従つて地代を比例せしめ、通貨が普通の状態に戻る時を待つて、それを低下せしむる事を餘儀なくされて居る機會を捕へる事より外は不可能である。

現下の地金の價格の低落及び改善せられたる我が國の爲替状態は、私の意見によると、金紙間の相違の大部分は商業的原因及び多數の人の想像以上の地金に對する特殊の需要による事を證明す

る。併し乍ら、それは、紙幣の發行が永久に維持する事が出来るより以上の價格の騰貴を許さなかつたと云ふ事を決して證明しない。穀物の輸入のみによつて特に生じたのではない所の逆行的運動は、既に明かに感じられた。而して、それは吾々が正金での支拂に復歸する事の出来る以前に、更に遠く進まなければならぬ。紙幣と地金との間に最大の開きのある時期に於いて、土地を貸す所の人々は、穀物の交易に關して如何なる制度が採用せられたにしても、恐らく土地を低下せしめなければならぬ。此等の逆行的運動は常に不幸である。而して、一部分此の種の原因によつて生じた高價なる地代は、價格の規則的進行を著しく妨害し、農夫及び地主の計算を共に混亂せしむるのである。

農場の貸付に關して茲にのべた諸注意を以つて、地主は正當に漸進的且つ永久的地代の増加を期待する事が出来る。而して、一般に、生産物の價格の上騰に比例する増加のみならず、生産物の分量の増加から起る所の、より以上の増加を期待する事が出来るのである。

地主及び借地人に對して、等しく公正なる地代をとる場合に於いて、繼續的貸借に當つて、地代が生産物の價格に對する比例以上に上らないと云ふ事が見出されるならば、それは一般に重税に原因するものである。

エコノミストが云つて居る様に、凡ての租税が地主の正味地代に歸着すると云ふ事は、決して眞理ではないけれども、しかし地主は國家の他の階級に比して一層屢々直接又は間接に課税せられ、且つ之を免れる力の一層弱いものである、と云ふ事は、確かに眞理である。そして地主は直接自分に課せられた租税と共に農夫の資本及び労働者の賃銀の上に落ちる租税の多くをも支拂ふものであり、そして確かに支拂ふから、彼等は他の事情の下に於て彼等の分前にまで落ちたであらう所の全生産物のその部分の減少の中に必ずそれを感じずに違ひない。併し乍ら、社會の異なる諸種の階級が租税によつて影響せられる程度は、それ自身一般租税理論に屬する廣汎なる題目であつて、別個の研究に値するものである。

—(終)—

—一九二五・八・譯了—

—一九二八・六・再訂—

—一九二八・九・三訂—

